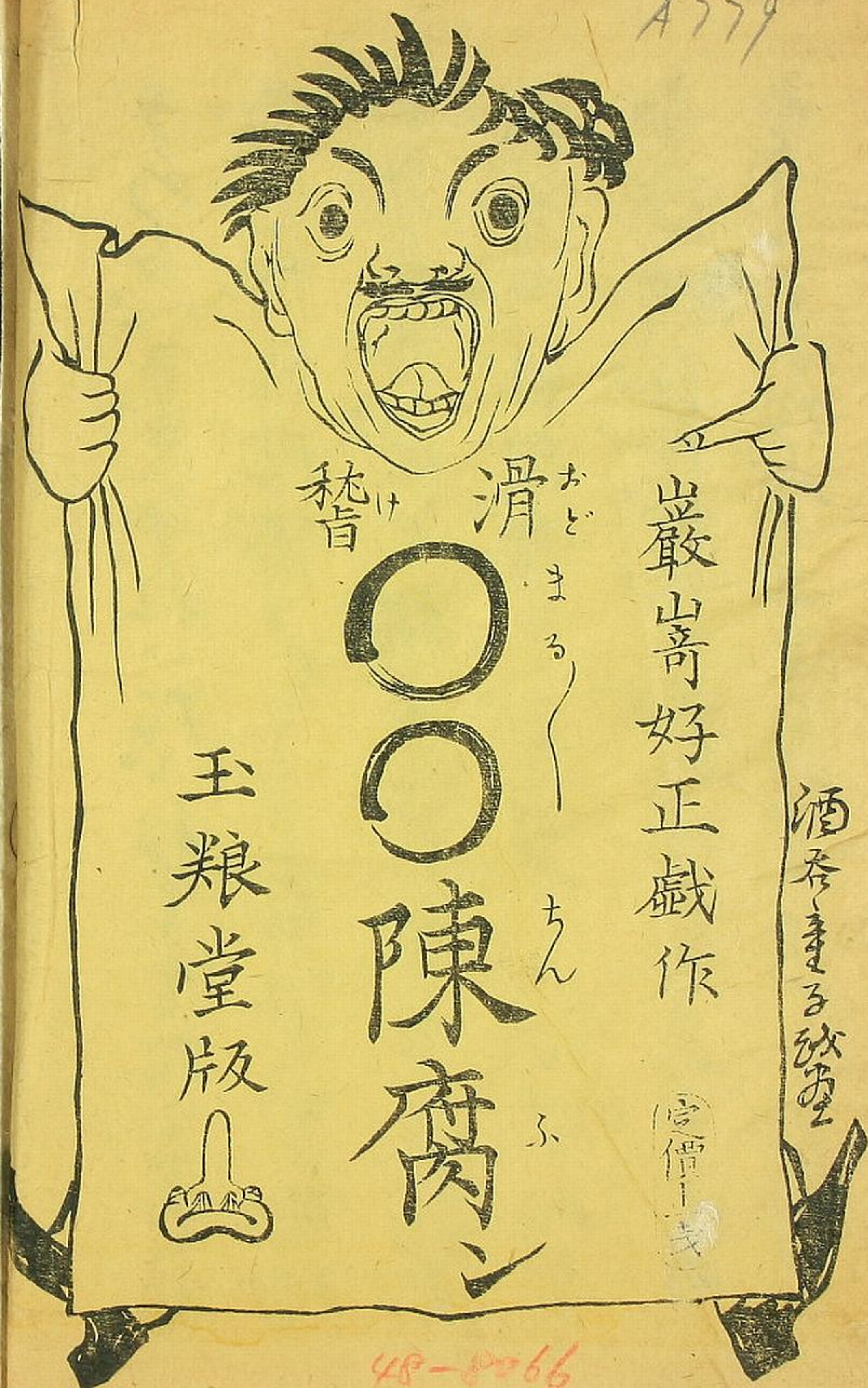




岩崎 いしざき
 好正 こうせい
 迷 まよ
 ○
 ○
 陳 ちん
 腐肉 ふにく
 初編



A779



酒吞童子妖術

巖山奇好正戲作

（信價）

滑かど 〇〇 陳ちん 腐ふ
 秘ひ 旨け

玉たま 粮ぎやう 堂だう 版はん

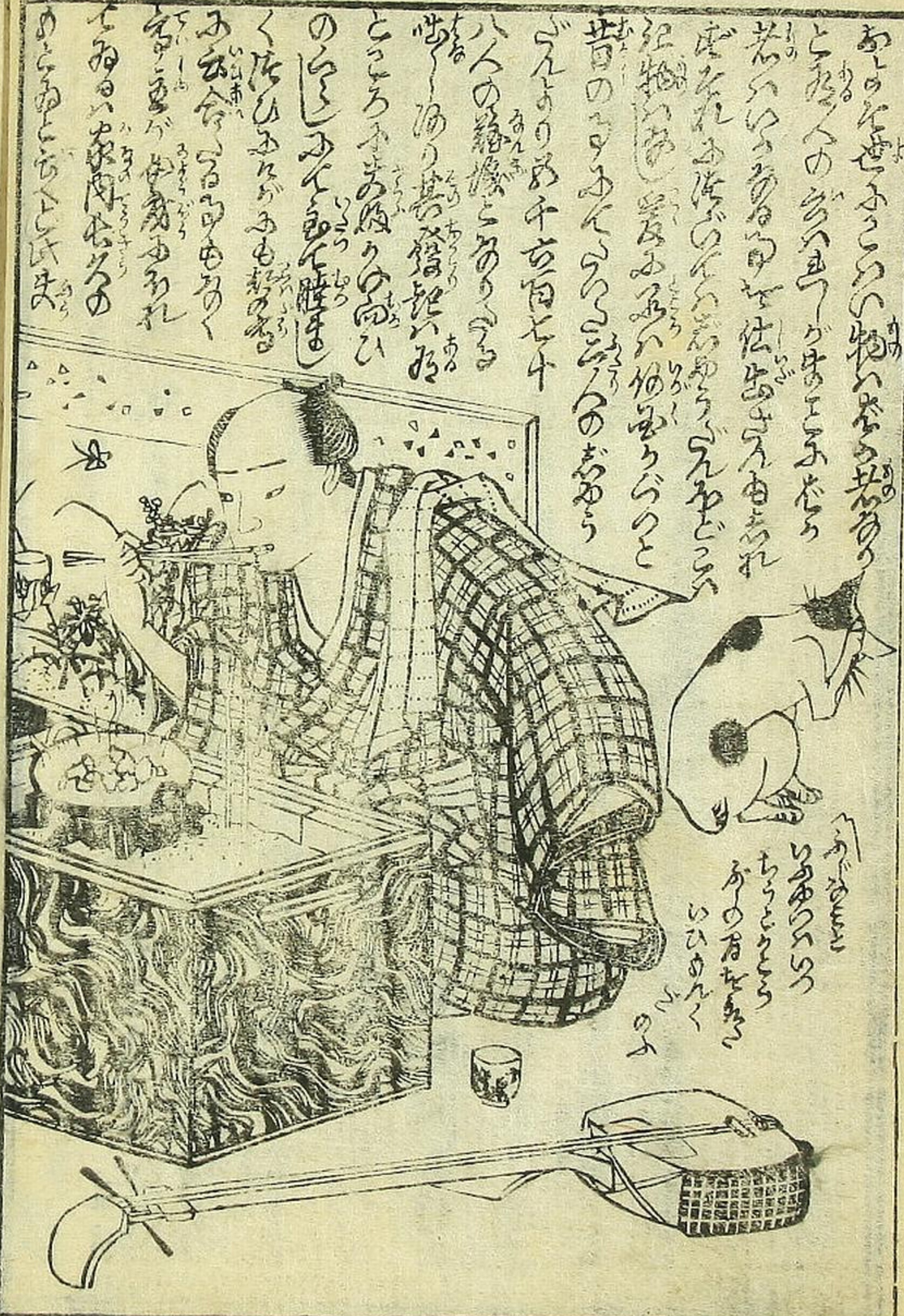

之保

滑かど 〇〇 陳ちん 腐ふ 〇〇

日本記の神武一板 何年より。永の光陰を経たきども。此維
 明治の〇〇代も未だ〇〇史に見下然れハ毒ヲ随れ〇〇乃其
 流行の第一也 珞聞紙にて〇〇社〇〇金貨よ〇〇顔〇〇昇るガ
 軽氣球〇〇降るガ二本棒〇〇赫るガ日本旗〇〇廻轉ガ地球〇〇で
 倒ぶガ應來猫〇〇て維持の浮世にて月も晦日よ〇〇出斯〇〇の時よ
 逢ひ△遍 蟲口遍 蟲理窟遍 蟲とモヨクと 躍飛まのも本意たふしと世変
 て〇〇めた玉養堂の需めよま〇〇らぬ筆をキヤクくと三本たらぬ猿猴ガ智
 恵の囊と〇〇出しよ 傾盡たたる虚萬八〇〇益よも奈良茶漬朝飯前の
 早趣向〇〇陳腐人と見玉（うー）

明治十のうーうーと 春の日 池子巖の識

48-8066



あはれをばかすに物もたれぬもの
 とたれぬものもさしつかへなく
 若くはあつちの世はたれぬもの
 世をたれぬものもさしつかへなく
 世をたれぬものもさしつかへなく
 昔のこともさしつかへなく
 今もさしつかへなく
 八人の縁邊にありて
 世のありさまはさしつかへなく
 とさしつかへなく
 のさしつかへなく
 くさしつかへなく
 あはれをばかすに物もたれぬもの
 世をたれぬものもさしつかへなく
 昔のこともさしつかへなく

あはれをばかすに物もたれぬもの
 とたれぬものもさしつかへなく
 若くはあつちの世はたれぬもの
 世をたれぬものもさしつかへなく
 世をたれぬものもさしつかへなく
 昔のこともさしつかへなく
 今もさしつかへなく



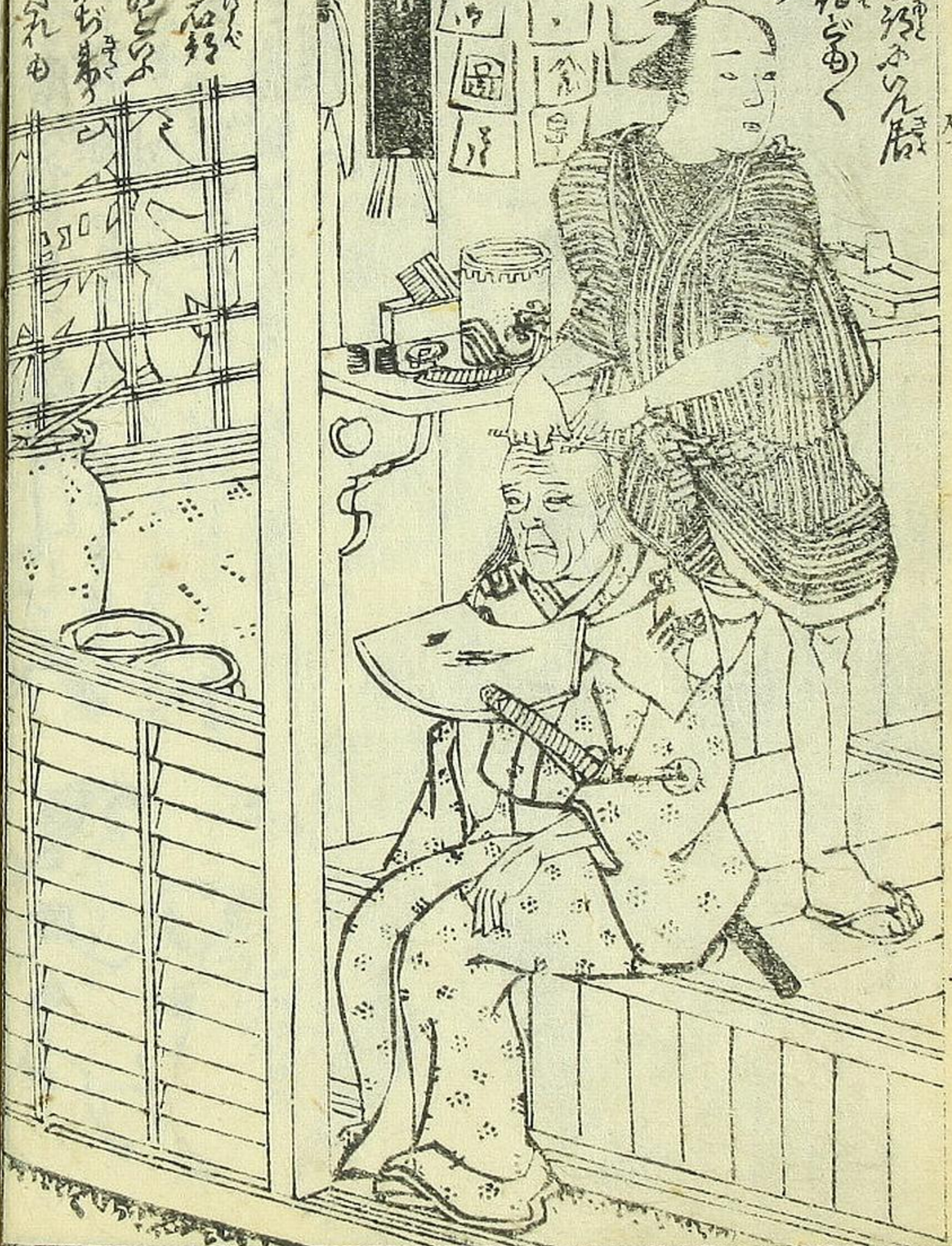
あはれをばかすに物もたれぬもの
 とたれぬものもさしつかへなく
 若くはあつちの世はたれぬもの
 世をたれぬものもさしつかへなく
 世をたれぬものもさしつかへなく
 昔のこともさしつかへなく
 今もさしつかへなく
 八人の縁邊にありて
 世のありさまはさしつかへなく
 とさしつかへなく
 のさしつかへなく
 くさしつかへなく
 あはれをばかすに物もたれぬもの
 世をたれぬものもさしつかへなく
 昔のこともさしつかへなく

あはれをばかすに物もたれぬもの
 とたれぬものもさしつかへなく
 若くはあつちの世はたれぬもの
 世をたれぬものもさしつかへなく
 世をたれぬものもさしつかへなく
 昔のこともさしつかへなく
 今もさしつかへなく



あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主

あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主
あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主



あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主

あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主
あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主
あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主

あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主
あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主
あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主

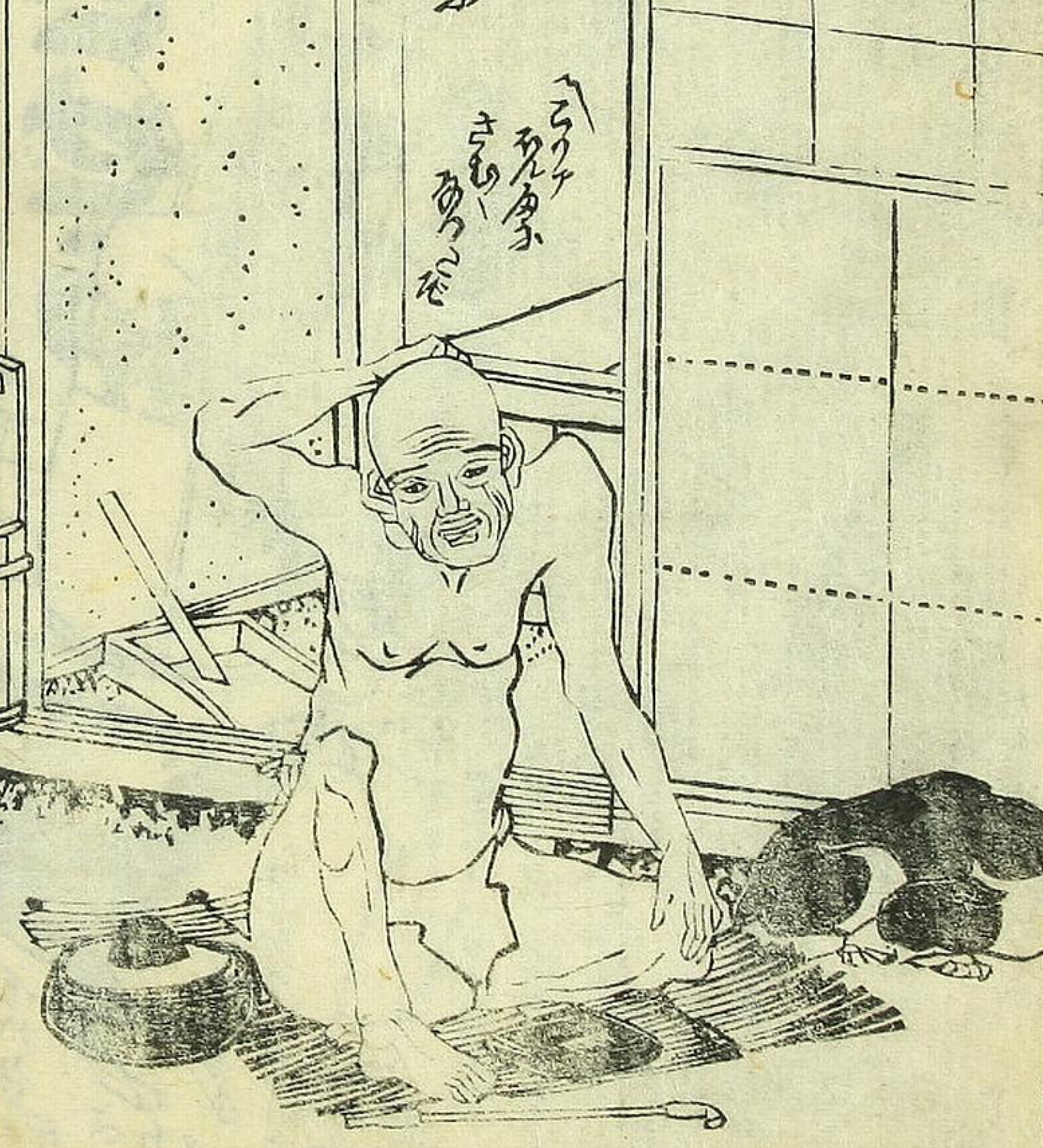


あつては終つたん殿
坊主の坊主の坊主

らのであるぞとつとらんと
 志あるのりなるかよき友
 手まて福をまをすんかの
 出るあいららぬり思ふ白
 べきとらさるるのらあり
 ありあののせとを

おぼゆるすすまの
 びるかは泉のなる
 人の手んぬすまこととあ
 ありてんかしのあ
 ありたるかづかんの

今たあのかさの
 あんぐのふま
 せんあのかきまじ
 おつるせむせ
 のたのあのと



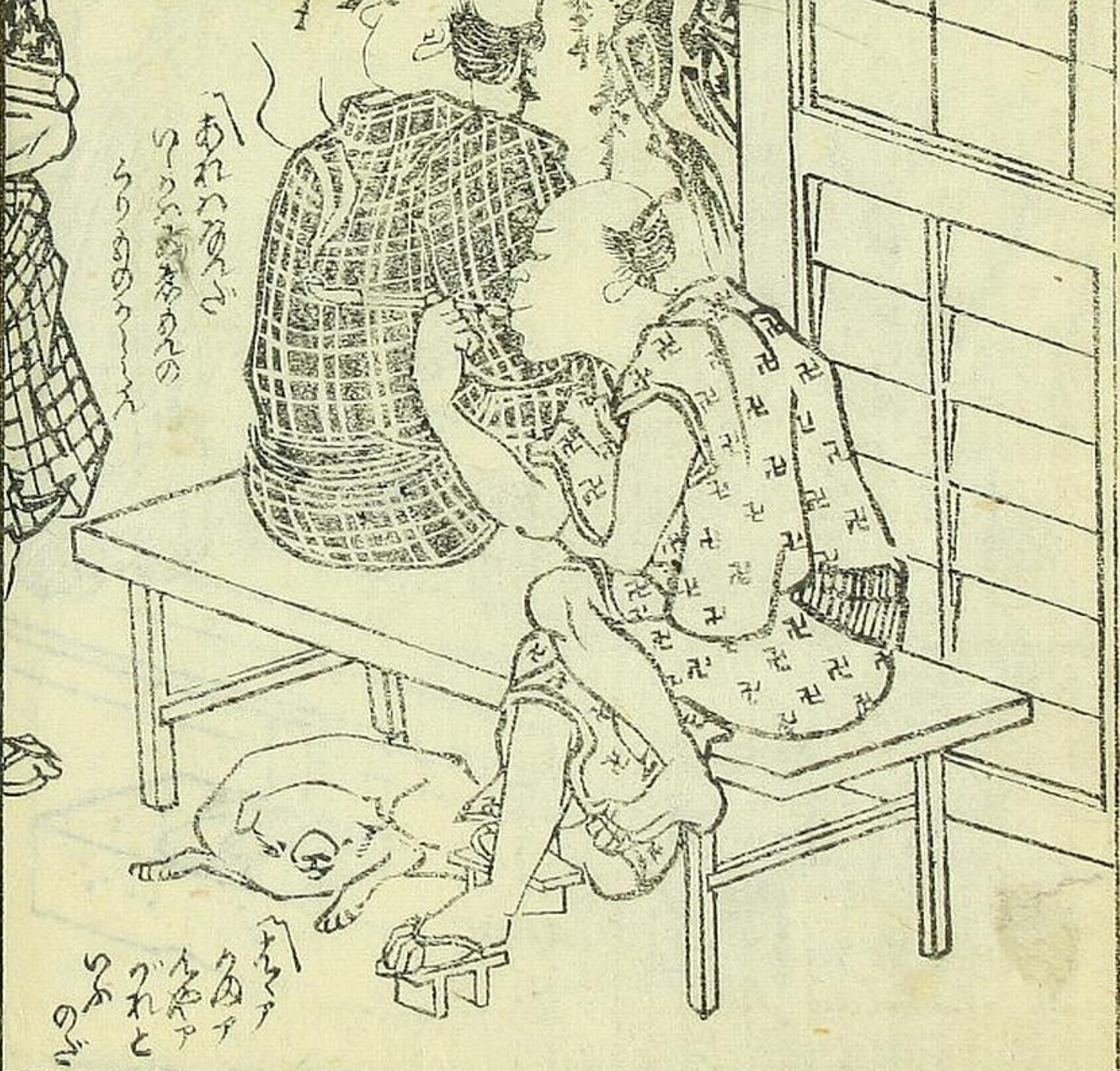
この
 あん
 さあ
 あつ

あらぬかん
 ちりるぬきのけ
 つまむたあひて
 たいん死ぬぬし
 なるあつるあふ
 七の家は助とあ
 ぬくぬたあふ
 ぶるあへく男老
 ありぬもせ
 ねあするあふ
 ちあんとあ
 のたさかんあ

ありぬあ
 たらあ
 おあふ
 笑



くらげが
 まちがひの
 とちがひの
 りのちがひの
 くらげが
 まちがひの
 とちがひの
 りのちがひの
 くらげが
 まちがひの
 とちがひの
 りのちがひの



くらげが
 まちがひの
 とちがひの
 りのちがひの
 くらげが
 まちがひの
 とちがひの
 りのちがひの
 くらげが
 まちがひの
 とちがひの
 りのちがひの

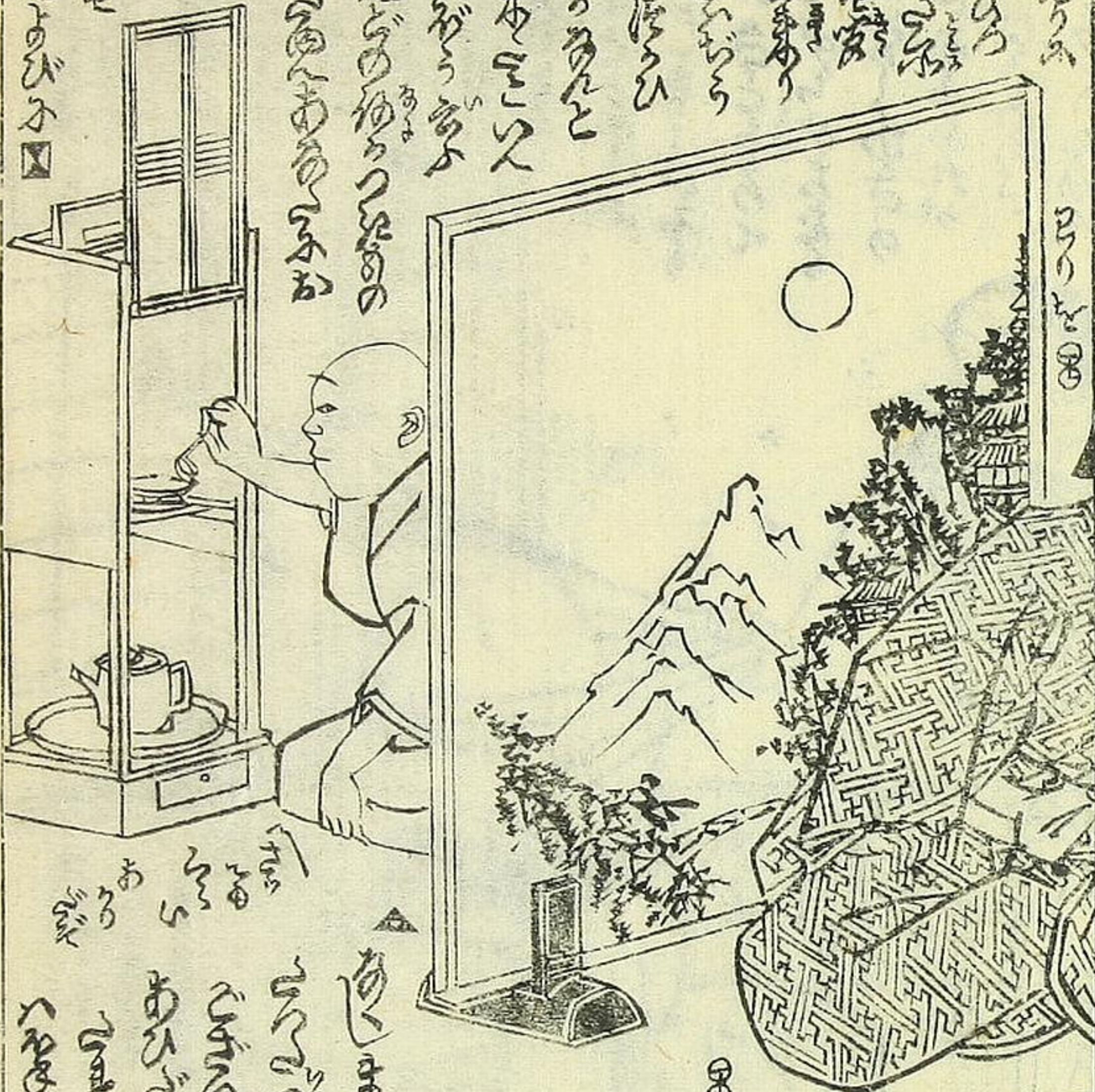


あがりなふやを 園方の金まきりてあらぬ
 下されとのあひ なるは徳徳のあひ
 さのゆへ傍の若 さいと侍のまじふ
 さいのゆへ傍の若 さいと侍のまじふ
 法ぬへゆのさう さいと侍のまじふ
 あつたあひをら さいと侍のまじふ
 つくろふい入る さいと侍のまじふ
 里あひのそまき さいと侍のまじふ
 さいと侍のまじふ さいと侍のまじふ
 つのあひをさあ さいと侍のまじふ
 ねまをちただ さいと侍のまじふ
 うんせまる さいと侍のまじふ
 かんたえおのつり さいと侍のまじふ
 あくのあらく さいと侍のまじふ
 おんちのゆき見 さいと侍のまじふ
 あつたあひをら さいと侍のまじふ



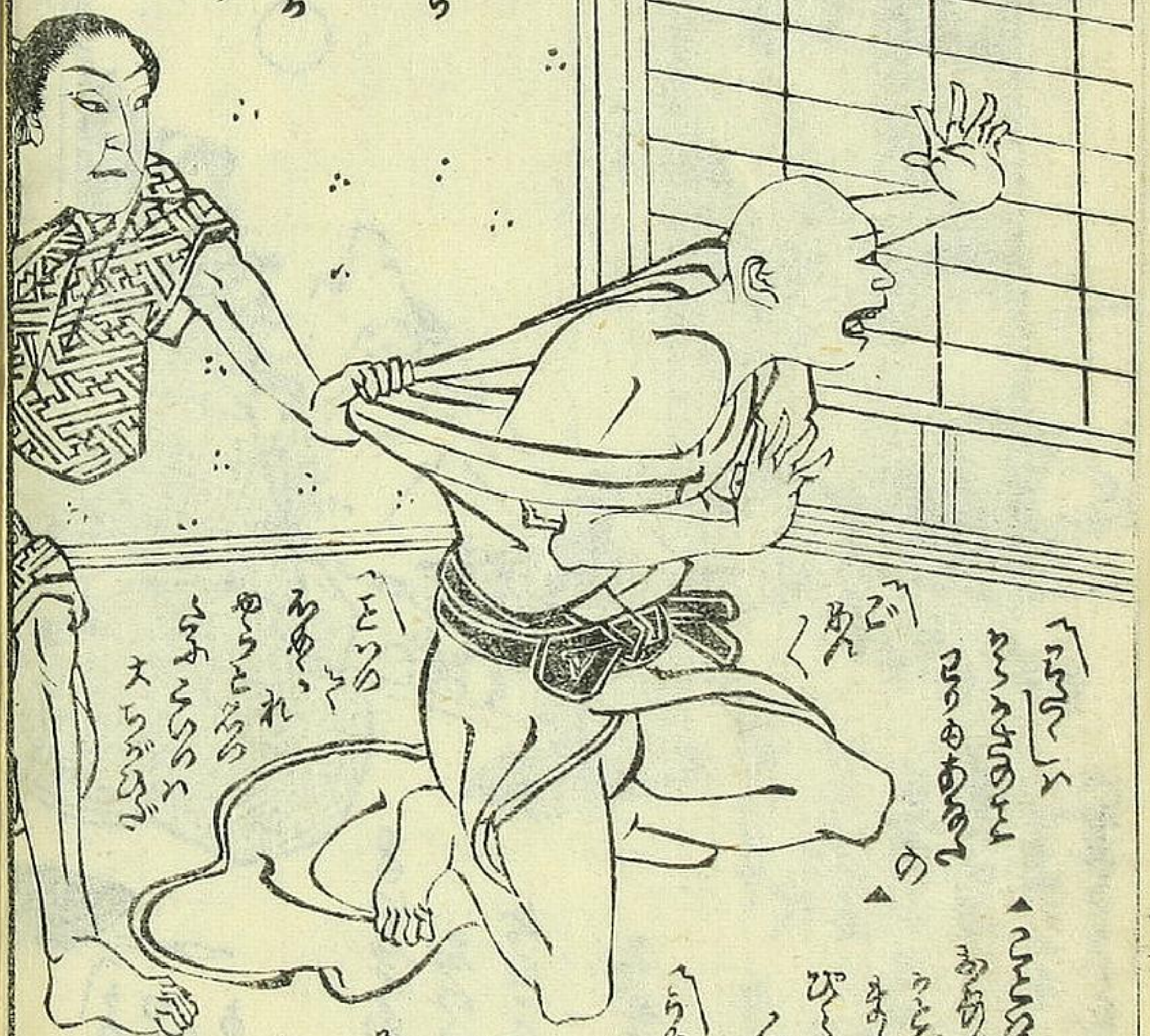
「あんながた
 ひろあがた
 こらあがた」

いのおひら さいと侍のまじふ
 うんせまる さいと侍のまじふ
 ひろあがた さいと侍のまじふ
 こらあがた さいと侍のまじふ
 今まあつたあひをら さいと侍のまじふ
 ちま人がはらひ さいと侍のまじふ
 なるあひのあらく さいと侍のまじふ
 いのえあつたあひをら さいと侍のまじふ
 けりあつたあひをら さいと侍のまじふ
 十さうどのあつたあひをら さいと侍のまじふ
 がつたあつたあひをら さいと侍のまじふ
 さいと侍のまじふ さいと侍のまじふ
 さいと侍のまじふ さいと侍のまじふ
 さいと侍のまじふ さいと侍のまじふ



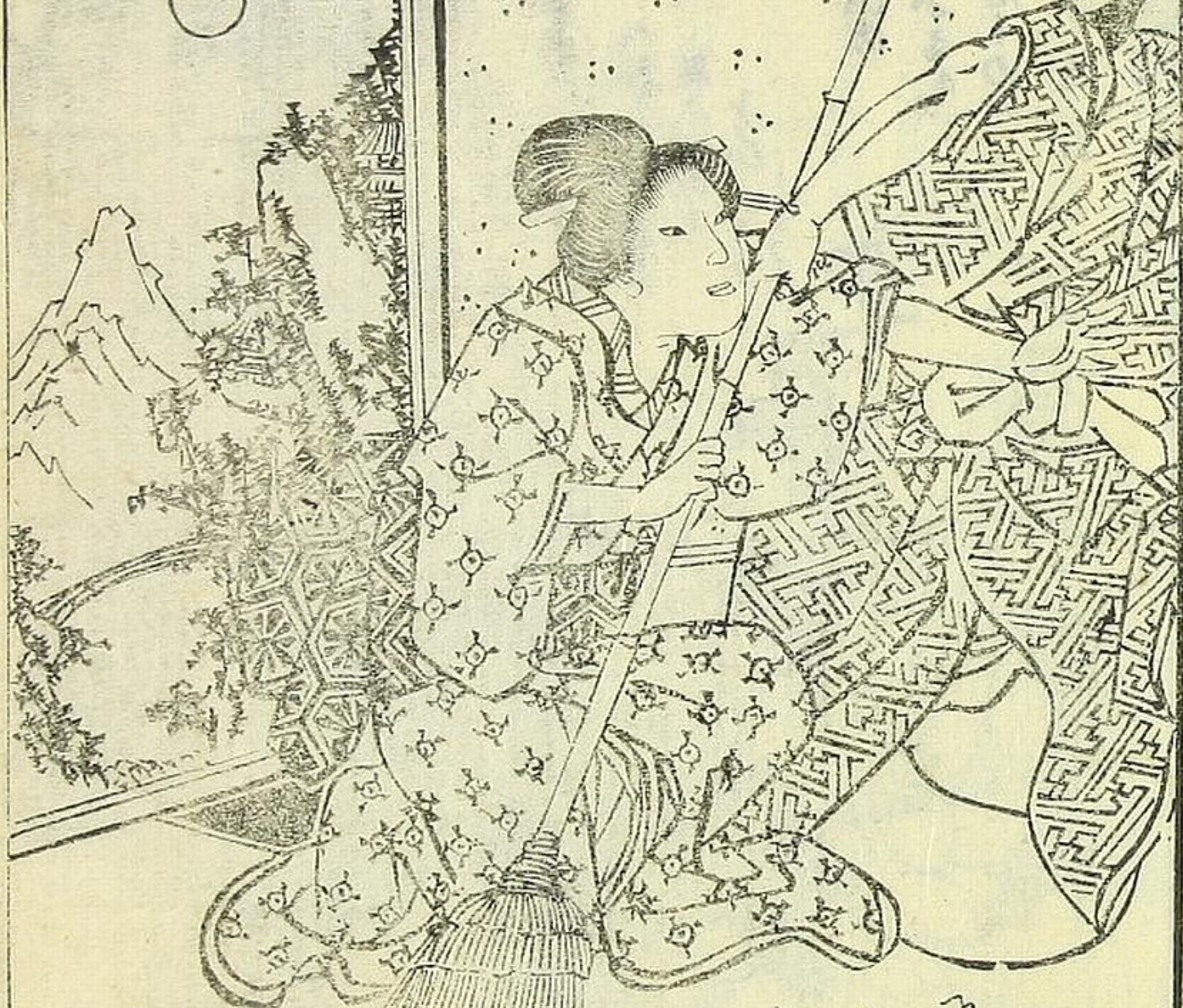
「あんながた
 ひろあがた
 こらあがた」

Handwritten text in the upper right section of the right page, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

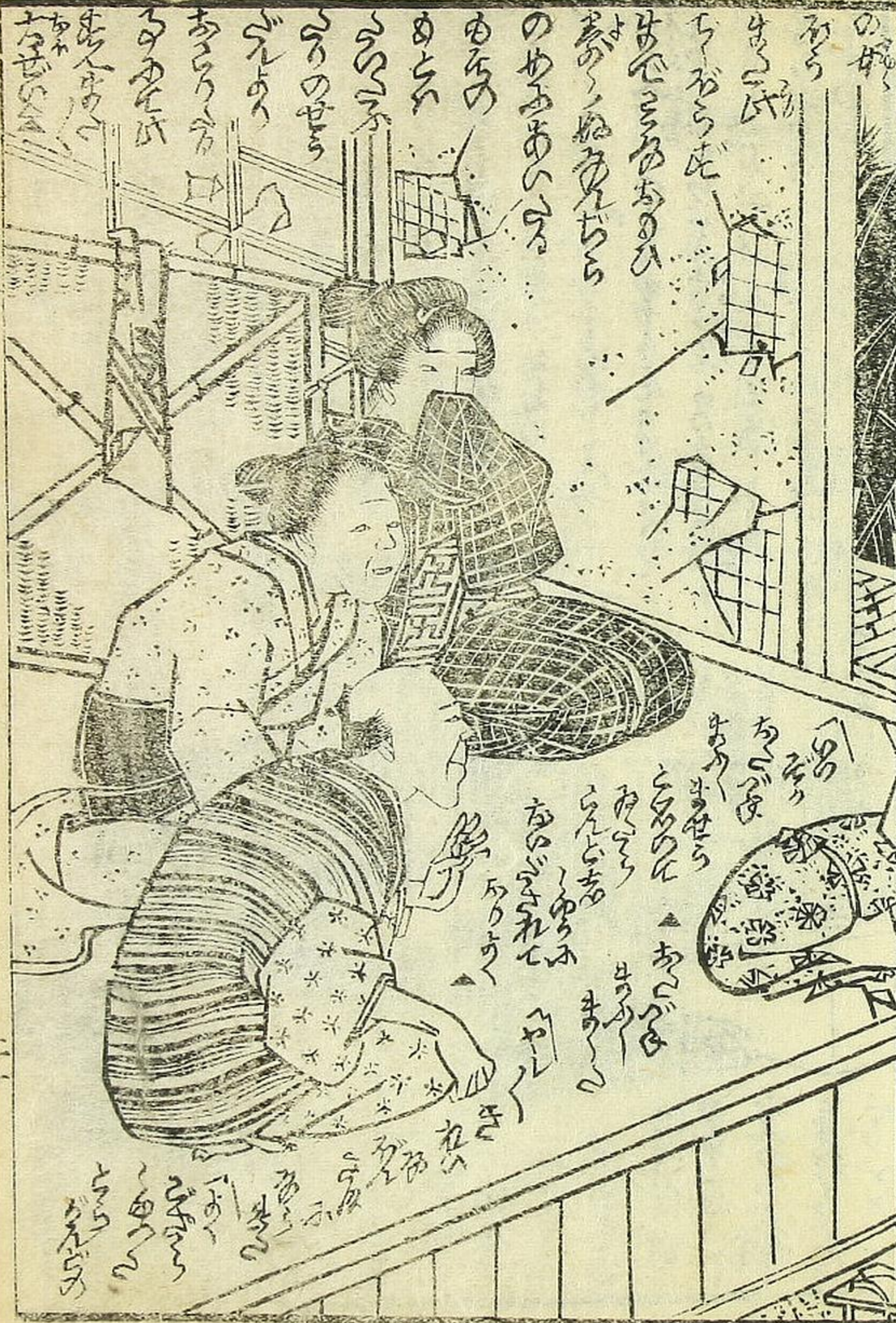


Handwritten text in the lower right section of the right page, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in the upper left section of the left page, consisting of approximately 12 lines of cursive script.



Handwritten text in the lower left section of the left page, consisting of approximately 10 lines of cursive script.





明治十年三月廿四日御届
 全 年同月廿日出板

著人

東京神田雉子町卅一番地
 岩崎好正

出版人

東京蠣壳町志丁目五番地
 若林喜兵衛

010190525029

